

協会の活動

発行：一般社団法人栃木県老人保健施設協会広報委員会

令和6年度 第1回職員研修会

- 日時：令和6年5月28日㊦
16時00分～17時15分
- 会場：ホテル東日本宇都宮2階 福寿
- 講演テーマ：
「新型コロナウイルスと今後の医療」
- 講師：国際医療福祉大学
学長 鈴木 康裕 様



講師の鈴木康裕氏は、輝かしい経歴で現在もWHOなど世界を舞台にご活躍される、日本の医療を牽引されているお一人と紹介があった。

講演テーマは「新型コロナウイルスと今後の医療」とのこと、日本の死因となっている第一位は癌、二位に心疾患、三位は肺疾患、四位は脳卒中。戦後の一位は感染症（スペイン風邪）であったが、約3年で終息した。ウイルスは寄生しないと生存できないため、毒性を弱めて、感染力は強くする傾向とのこと。新型コロナウイルスにおいても、オミクロン型に変異してから致死率は低下し、感染力は高くなっている。現在ではインフルエンザよりも致死率は低下し、そこまで敏感になる必要はなくなってきており、日本においては、5類移行が遅かったと鈴木氏は仰っている。

新型コロナウイルスが流行する前から、①PCR検査の評価、②保健所の強化を10年前から提言していたが、間に合わずに今回新型コロナウイルスが流行してしまったと。

過去を見ても3年～5年に一回パンデミックは起こっている。現在の感染症は呼吸器系に症状が起こりうる可能性が高い、かつ潜伏期間が72時間ほどあり、新型コロナウイルスに関しては感染のピークが潜伏期となっている。現実的に72時間あれば、ほぼすべての国へ渡航が可能な時間となっているため、どこでも発症するリスクはある。

北海道の調査では下水に潜伏するウイルス量と、感染者数は比例していたとの興味深いお話もあった。

ワクチンについては、種類によっても防御率が違い、ファイザー社、モデルナ社のワクチンで防御率95%、その他50%以下のワクチンもあると初めて知る情報が多かった。

日本はワクチンを開発し、他国のワクチン量が少なく、日本へ輸出ができなくても、自己防衛する力をつける必要性があるとのこと。

最後に今回の新型コロナウイルス流行の教訓として、単なる偶然（ラッキー）はない、長い失敗の上に成功がある。ワクチン開発に力をいれるべき。また、以下の5点、1、安全保障としてやむを得ない自国中心主義、2、研究開発基盤、3、国内治験の必要性、4、スピーディな意思決定と世界共通語による議論、5、日本という限られた市場からアジアへ、この5つが重要とのことだった。

短い時間でしたが、貴重な時間を頂戴し、経験豊富な鈴木氏の講演を拝聴することができ、改めて感謝申し上げます。

